

農作業コツのコツ

【第13号】

令和5年7月15日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

水管理

干しすぎに注意し、

幼穂形成期以降は飽水管理、

出穂期からは湛水管理を徹底しましょう。

農作業中はこまめな休息と水分補給に努め、熱中症を予防しましょう。

平年より気温が高く、水稻の生育は平年並みからやや早くなっており、コシヒカリは草丈が平年よりやや長めとなっています。

高品質米に向けて稲体の活力維持が重要な時期を迎えています。早生品種は出穂後 20 日間の湛水管理を、コシヒカリやてんこもりは出穂期まで飽水管理を徹底しましょう。

水稻の生育状況

(移植7月11日、直播7月7日:福光農業改良協議会 良質米実証田生育調査結果)

品種名	田植日		草丈(cm)		株当たり茎数(本)		葉齢(葉)		葉色		幼穂形成期		
	R5	平年	R5	平年	R5	平年	R5	平年	R5	平年	R5	平年	
コシヒカリ	5/13	5/14	75.1	74.2	21.2	21.3	12.1	12.3	4.1	4.0	7/9	7/10	
てんこもり	5/12	5/9	68.7	65.2	34.9	31.0	12.9	13.1	4.3	4.2	(7/13)	7/13	
密苗	コシヒカリ	5/15	5/15	73.3	71.7	22.4	25.9	12.4	12.3	4.2	4.2	7/10	7/14
	てんこもり	5/6	5/9	61.1	65.5	27.4	30.6	12.8	13.0	4.2	4.2	(7/15)	7/15
直播	カルパーコシ	4/27	4/30	66.6	64.9	178	167	11.8	11.1	4.0	4.0	7/10	7/14
	鉄コ コシ	5/3	4/30	62.7	62.5	172	171	10.9	11.1	4.3	4.2	(7/17)	7/17
	鉄コ てんこ	5/1	4/30	51.8	54.1	207	210	11.8	11.8	4.4	4.3	(7/21)	7/21

※直播の田植日は播種日、株当たり茎数はm当たり茎数

※コシヒカリ(慣行苗のみ)3筆、直播(加パ-)1筆、他2筆

水稻

1 水管理

(1) とみちから、五百万石、てんたかく 81

出穂後 20 日間 (7月15日出穂は8月4日頃まで) は、田面が露出しないように 2~3 cm の湛水状態を保ち、収穫期まで根の活力を維持しましょう。

(2) コシヒカリ、てんこもり、直播

- ・穂揃期の葉色の確保に向けて、足跡や溝に水が残る状態になったら入水して土壌の湿潤状態を保つ飽水管理を徹底しましょう。
- ・てんこもりは、干しすぎによる葉色の低下に注意しましょう。
- ・コシヒカリで葉色が濃い、ほ場が軟らかい場合は間断かん水を継続しましょう。

(移植・直播(カルパー)7月20日頃、直播(鉄コ)7月25日頃まで)

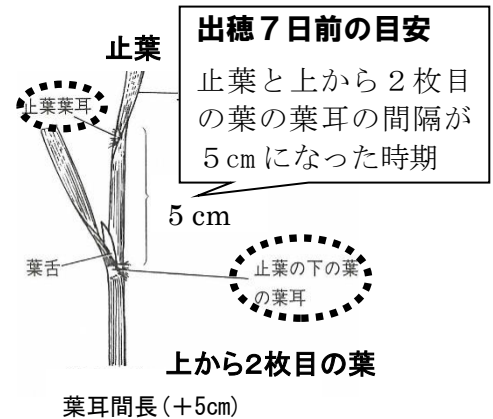
2 穂肥施用(コシヒカリ、てんこもり)

(1) 肥効調節型基肥体系

出穂7日前に葉色を確認し、葉色が極端に淡い場合は出穂3日前までに追肥を行い、登熟能力の向上を図りましょう。

○コシヒカリ、てんこもりの追肥の目安

品種	葉色確認	葉色	施用量
コシヒカリ	7月24日頃	4.0以下	追肥3号 7kg/10a
てんこもり	7月28日頃	4.2以下	追肥3号 11kg/10a



(2) 分施体系

草丈、葉色などの生育量に応じ、慎重に施肥しましょう。1回目施用時の生育が目標を上回る場合は、施用時期を遅らせるか施用量を減らしましょう(詳しくは、営農指導員にお問い合わせください)。

○コシヒカリの穂肥施用の目安

施用時期	1回目	2回目
	幼穂長15mm時	1回目の7日後
10a 当たり施用量 (使用肥料:追肥3号)	10kg	粘質土以外 12kg
		粘質土 11kg

1回目穂肥時の目標生育	
草丈	葉色
82cm以下	3.6程度

カメムシ類を抑えるため、雑草の穂が出ないように基本防除までこまめに草刈りを行います。

3 病害虫防除

(1) 基本防除

適期に2回の**基本防除**を徹底し、いもち病やカメムシ類による斑点米の発生を防ぎましょう。

品種	防除時期の目安			薬剤、散布漏	
				液剤【無人航空機】	粉剤
五百万石 とみちから てんたかく81	1回目	穂が全体の90%出た頃	7月17日 ～21日	ビームエイトスタークルゾル 8倍、0.8ℓ/10a	ビームスタークル粉剤5DL 4kg/10a
	2回目	1回目の1週間後	7月24日 ～28日	キラップフロアブル 8倍、0.8ℓ/10a	キラップ粉剤DL 4kg/10a
コシヒカリ てんこもり カルパー直播	1回目	コシ：穂が全体の40～50%出た頃 てんこもり・直播：出穂直前	7月31日 ～8月6日	ビームエイトスタークルゾル 8倍、0.8ℓ/10a	ビームスタークル粉剤5DL 4kg/10a
	2回目	1回目の1週間後	8月7日 ～13日	キラップフロアブル 8倍、0.8ℓ/10a	キラップ粉剤DL 4kg/10a

(注) ①必ず出穂状況を確認して防除を行いましょ。

②1回目防除と2回目防除の間隔は7日間とし、10日以上空けないようにしましょ。

(2) 随時防除

- ①**葉いもち** 感染しやすい気象条件となっています。葉色が濃いほ場などで病斑が見られたら直ちに防除を行いましょ。
- ②**紋枯病** 前年に多発したほ場や茎数が過剰なほ場では発生が懸念されます。穂ばらみ期(コシヒカリ出穂10日前頃、てんこもり出穂7日前頃)に病斑が見られたら防除しましょ。
- ③**稲こうじ病** 常発地では、**出穂10日前までに**薬剤を散布しましょ。
- ④**イナゴ類** 発生が多い場合は、若齢幼虫のうちに防除を行いましょ。

※詳しくは、「営農とくらし」P52～53を参照してください。

大豆

1 培土

培土は晴れ間を見て、開花期までに確実に2回行いましょ。

2 雑草防除

雑草の発生が多い場合は、雑草や大豆の状況に応じて、遅れずに除草剤を使用しましょ。

対象雑草	除草剤名	使用時期	使用回数	10a 当たり散布量
イネ科雑草	ポルトフロアブル	イネ科雑草3～10葉期 ただし、収穫30日前まで	1回	薬液200～300ml ／希釈水量100ℓ
畑地1年雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	大豆2葉期～ 開花前 ただし、収穫45日前まで	1回	薬液100～150ml ／希釈水量100ℓ
畑地1年生雑草	ザクサ液剤	雑草生育期(うね間処理) ただし、収穫28日前まで	3回以内	薬液300～500ml ／希釈水量100～150ℓ
	バスタ液剤			
	ダイロンゾル	雑草生育期(大豆5葉期以降：うね間処理) ただし、収穫30日前まで	1回	薬液100～200ml ／希釈水量100ℓ

ザクサ液剤またはバスタ液剤との混用で除草効果が高まります

※詳しくは、「営農とくらし」P90～91を参照してください。

3 うね間かん水

開花期頃から**9月上旬までの水不足は、落花や落莢を招き、青立ち(莢先熟)**につながります。開花期頃から晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、積極的に**うね間かん水**を行いましょ。

4 病害虫防除

確実に**基本防除**を実施し、紫斑病やカメムシ類の防除を徹底しましょ。

防除区分	防除時期の目安			薬剤、散布量	
				液剤	粉剤
ウコンノメイガ (随時防除)	7月下旬～8月初め 株当たり6個以上の葉巻きが発生したら直ちに			【ブームスプレーヤ】 プレバソフフロアブル5 4,000倍、200ℓ/10a	ダントツH粉剤DL 4kg/10a
基本防除	1回目	莢が伸び きった頃	8月5日 ～15日頃	【無人航空機】 プランダム乳剤25 24倍、 カスケード乳剤 32倍、0.8ℓ/10a	Zボルドー粉剤DL※ 3kg/10a
	2回目	莢に子実が つまった頃	8月20日 ～30日頃	アミスター20フロアブル 16倍、0.8ℓ/10a	トライトレボン粉剤DL 3kg/10a

※出穂している水稻にかかると薬害が発生するので、飛散防止に努めましょ。